



同好会ひろば

第294号
令和5年1月
No.4

小・中学校合同部会 11月29日(木) @名古屋市中企業振興センター

今回は、小学校、中学校の各分野の部長や副部長、推進部員に加え、社会科研究会の役員の方々にも参加していただき、協議を行いました。7月以来の合同部会でしたが、今回も有意義な時間を過ごすことができました。異校種からの新たな意見は、今まで考えなかった視点からの意見ばかりで、新たな考え方を生み出すことができるのだと、小・中学校合同で部会を行うよさを改めて感じることができました。



小学校の各分野では、本実践の様子、実践の成果と課題について、各分野の副部長、実践者から発表されました。そして、各分野が考えた「教材化の工夫」や「学習活動の工夫」によって、目指す子どもの姿に迫ることができたのかについて協議しました。協議では、学習活動の工夫である「個別最適な学び」の実際の様子を熱心に聞き入り意見を交わしたり、「協働的な学び」についての考えを討議し合ったりと、今回の実践だけでなく、今後のより良い実践について考えることができました。

中学校の各分野では、1学期に行われた全中社プレ実践についての様子や成果と課題、10月に行われた全中社本実践についての様子や成果と課題が各分野の部長、授業者から発表されました。そして、11月に行われた全中社大会において他自治体の先生から受けた質問なども交えながら授業の実際の様子について議論をすることができました。全中社の理論に沿った学習を進める中で、生徒が合意形成に向けて共通の価値観を導き出すためにどのような発問や指示を出したのか、また、どのような話し合いを行ったのかなど、小学校と中学校の先生同士で議論がなされました。

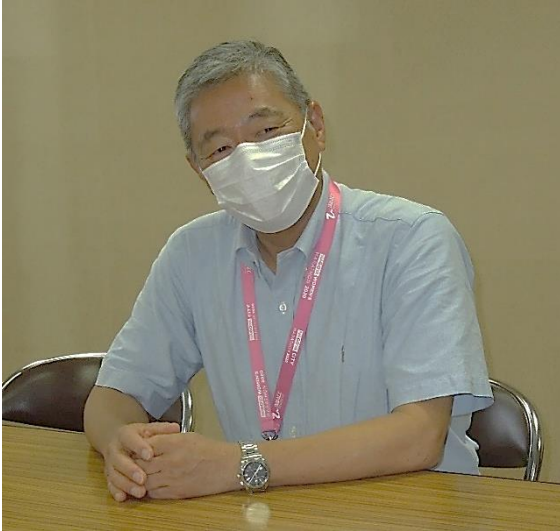
次回は、今後の推進部会を担う若手同好会員に多く参加していただきたいと考えています。若手同好会員が、推進部会についてイメージできるように、各分野グループが取り組んだ実践の単元計画や研究の進め方を発表します。是非ご参加ください。

【小・中学校各分野グループの実践内容】

- **小学校 地理分野 第5学年 単元名「自然災害を防ぐ」**
国土の自然災害が自然条件と関連して発生することや、国や都道府県の取組を調べた上で、自然災害に対し、国や都道府県と自分たちにとって今後どのような取組が必要かを考えていく。
- **小学校 歴史分野 第6学年 単元名「江戸幕府と政治の安定」**
安定した世の中にするために必要であった政策とその影響を捉え、当時の様々な人々が幕府の政策によって多大な影響を受けたことや不満をもったことを考えていく。
- **小学校 現代社会分野 第5学年 単元名「情報を生かす産業」**
様々な産業における情報ネットワークの活用を教材として、情報ネットワークの活用のよさについて考えていく。
- **中学校 地理的分野 単元名「世界の人々の生活と環境」「地域の在り方」**
地域の諸課題に対する解決策について捉え、地域の諸課題を解決する上で大切な概念を理解し、地域の未来を粘り強く考えていく。
- **中学校 歴史的分野 単元名「大帝国の出現と律令国家の形成」「経済の成長と幕政の改革」**
歴史の転換期を取り上げ、当時の多様な人々の立場や考え方、時代的な制約に身を置いて、なぜ社会体制のゆらぎが生じたのか、そこにどのような人々の営みがあったのかを考えていく。
- **中学校 公民的分野 単元名「これからの人権保障」「地方自治と私たち」**
現代社会が抱える諸課題を自分の課題として捉え、様々な立場や考え方、価値観を踏まえながら、他者と共に課題の解決に向けて考えていく。

【第294号 紙面】

小・中学校合同部会	(p1)
OB訪問インタビュー 木村 明夫先生	(p2・3)
第2回授業づくり講座	(p4)
ステップアップ研修	(p5)
授業力アップ研修・オンライン交流会・今後の予定	(p6)



訪問インタビュー

木村 明夫 先生

昭和57年、平和小学校に着任。以降、小幡小、白鳥小、大森北小、金城小を経て、日比津小学校長に。その後、辻小、上社小学校長を歴任されました。

現在は、名古屋市教育スポーツ協会にてご活躍されています。

名古屋市の社会科教育を発展させるため、同好会事務局員、先の全小研名古屋大会では事務局次長、名古屋市立小中学校長会社会科部会長を歴任された木村明夫先生。先生の豊富なお経験を基に、今の教育現場に思われることや今後の同好会活動を充実させるための貴重なお話を伺いました。

名古屋市教育スポーツ協会での仕事について

現在の仕事の中心は、トワイライトスクール・ルームの運営です。トワイライトスクール・ルームは、学区や地域の人々とつながって、子どもたちが過ごすことができる場所です。8月から、新たな試みとして、学生ボランティアがトワイライトを巡回して講座を行うという取組を始めました。「につぼんど真ん中祭り」に参加している学生団体によるダンス講座やバルーンアートに取り組む学生グループの講座、パラリンピック種目でもあり誰もが取り組めるポッチャのよさを広める「ポッチャひろめ隊」による講座等を進めています。これからさらに講座を充実させて、学生さんの若い力をトワイライトに呼び込みたいと考えています。トワイライトに参加する子どもたちがいっぱい笑顔で放課後の生活を過ごす、これが現在の目標です。

振り返ってみると……

社会科同好会との出会いは、3年目に、研究員を終えて赴任されてきた社会科の大先輩と同学年を組んだことでした。その先生の授業は、子どもたちがよく話し、子どもたち自身がつくり上げる、まさに主体的なものでした。振り返ってみると、この大先輩に少しでも近づきたい、この先生のように子どもたちが活躍する授業をしたいという思いで、それからの30数年を過ごしてきたと言っても過言ではありません。大先輩に近づけたという感覚がいまだもてないのは、残念なのですが……。

これまでの取組の中では、白鳥小学校で行われた生活科の全国大会の公開授業が印象に残るひとつです。当時は、総合的な学習の時間を先取りした実践として、学区にある神社や雅楽器店、飲食店を姉妹交流している他地域の小学生に紹介するという実践に取り組みました。子どもたち自身が学習内容を決め、分かったことをみんなで共有しました。子どもたち自身が授業をつくり上げるという授業に対するイメージは、誰もがもっている望ましい授業像ではないかと思います。

変えてはいけないことは？

今の学校は大きく変わってきているように感じています。働き方改革が進められ、しかも、コロナ禍。学校のICT化もあつという間に進みました。運動会や学芸会などの学校行事も様変わり、家庭訪問が地域訪問になったり、通知表の時期が変わったり、様々な変化があると聞きます。

時間の進み方は早いです。だからこそ、ちょっと待てよと立ち止まって考えることがあってよいのではないかと思います。働き方改革は何のためだったでしょうか。タブレットと向き合うだけの授業になっていませんか。学校だからやれることって何でしょう。大事にすべきことはなんだったっけ？
こんなことを考えることが必要ではないかと思えてなりません。

リモート授業ではない、対面での授業だからこそできることがあります。空気感や教室の雰囲気、子ども一人ひとりの顔つきの変化、そして、互いの気持ちを共有することができます。回り道をしたり、道草をしたりした方がよいこともあるでしょう。効率の良さを求める中で、大切なものや良いことを落としてしまっていないかなと考えてみたいものです。子どもや保護者、教師にとっても本当にそれで良いのか、どうしていくべきなのかということをつつも頭に置いておきたいと感じています。

どのような時代の流れにあっても、学校でやるべきことは、子どもたちの学習です。授業を行うことは、どのように削られたとしても、最後まで必ず残るでしょう。おまけに、民主主義社会を支える大人になってもらうためには、社会科という教科はすごく重要だと思います。自分も含めて、大人がきちんと物事を見ることができているのか？と思うと同時に、小中学校の9年間において、社会のできごとを自分ごととしてとらえられる経験ができたらずばらしいなと思います。物事を決める機会はたくさんあります。面倒だと思わず、みんなの考えを尊重して決めることの良さを感じ取っている、そんな経験をもたせることができたと思っています。

実践をつくりあげる面白み

3年目に出会った大先輩の先生を始め、たくさんの方々との出会いがありました。このことは、私の財産であると思っています。ぜひ人とのつながりを大事にしてほしいです。

同好会活動で行うグループ研究には様々な方法がありますが、そこに、自分が実践して、それを検討してもらおう場があるのは大事だと思います。同学年のグループならば、共通の目標を設定して各自が実践に取り組む。ある人は教材が違っている、こちらの人は同じ教材だが取り上げ方が違う、この人は地域性を考えて学習活動を変えている…。そうして集約された様々な実践の中から、目の前にいる子どもたちに最適な方法を自分で組み立てていくことの大切さや面白さが感じられることと思います。そこに同好会実践をつくることの面白みがあると思います。このやり方は十分な検討と実践の深まりという点では弱さがあります。時期や会員の方々のニーズに合わせて、やり方を考えていかれたらどうでしょうか。

今後も、人とのつながりを大事にしながら、実践をつくりあげる面白みが感じられる同好会活動になることを期待しています。



第2回授業づくり講座 9月15日(木) @オンライン

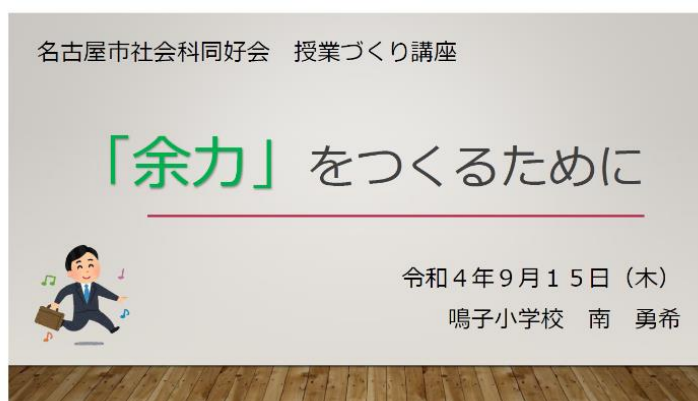
授業づくりのポイントや、よい授業・研究をするための働き方について学ぶ「第2回授業づくり講座」が、9月15日に開催されました。オンラインで開催し、たくさんの先生方にご参加いただきました。

【小学校】 講師 鳴子小学校 南 勇希先生

テーマ 「余力」をつくるために

「研究は、『余力』で行うもの」とも言われています。普段の仕事のやり方を見直し、自分で「余力」をつくり出す工夫について、学ぶことができました。授業準備や校務分掌など様々な仕事に追われ「余力」なんてない!と思いますが、南先生の日々の工夫から「余力」をつくる秘訣に気付かされました。

「余力」をつくるためには、仕事をする時期を工夫することや仕事に軽重を付けること、整理整頓をすること、メモのきまりを徹底することなど具体的に伝えてくださいました。最後に南先生から「チリも積もれば山となる」と言った言葉で締め上げて頂き、細かいことでも積み重ねていき、「余力」をつくりたいと思いました。また、その「余力」によって素晴らしい授業や研究ができるのだと感じました。



【中学校】 講師 大森中学校 竹村 詩子先生

テーマ 「生徒の心をつかむ単元の導入方法」

中学校の授業づくり講座は「生徒の心をつかむ単元の導入方法」をテーマに大森中学校の竹村先生にオンラインでご講話してもらいました。明日からすぐに使える単元の導入方法について、具体的な経験も交えながらお話をしてもらいました。



単元の導入に必要なことは生徒が身近に感じられ、生徒の興味を引くことができる教材を発掘することが大切であること、そのために興味を引ける様々なものをどのように授業と結びつけるかを考えながら教材研究を進めていくべきとのことでした。

具体的な事例としてはアフリカに関する映画の予告動画を見せて課題について予想させたり、オーストラリアの紙幣を使って紙幣に写っている人物について考えさせる発問したりすることで生徒の「なぜ？」を引き出し、単元のスムーズな導入を行うことができるとのことでした。

また、これまでのご自身の経験から、参考となる書籍についても紹介いただき、単元を通した指導計画を考える上でとても参考になるご講話でした。



ステップアップ研修

【ステップアップ研修とは!?!】

本年度から、ステップアップ研修を、「体験記録へのチャレンジ」「授業作りを学ぶ段階から、授業研究へステップアップ」していくという内容に変えていきました。先生方の研究や論文の書き方について親身になって相談に乗ってくださる指導の先生とのマンツーマンの研修です。授業作りのスキルを身に付けることはもちろん、年間を通じて研究の進め方について学ぶことができます。

【第1回ステップアップ全体会 ~9/22 オンラインにて~】

ステップアップ研修の受講者を対象に、オンライン会議システム「Zoom (ズーム)」を用いて、研究の進め方についての研修会を行いました。

稲永小学校の夏目郁馬先生を講師にお招きし、「体験記録の書き方」について講話をいただきました。ご自身が体験記録で特選をとることができた研究をした年度に、計画的に考えてきたことを中心にお話をいただきました。右の図は、講話の際に提示されたスライドの1ページです。体験記録の実践に必要な観点として、「教育に対する姿勢」「課題性」「独創性」「説得性」が必要という話は、研究を進める上でとても大切な観点だと感じました。さらに、夏目先生が独自に挙げた5つ目の観点が「計画性」です。夏目先生は、特選をとる3年も前から、特選をとれる実践を進めるためにはどうしたらよいか考えていらっ

講評は大切

4つの観点

- ①教育に対する姿勢
- ②課題性
- ③独創性
- ④説得性

⑤計画性



必要な観点として、「教育に対する姿勢」「課題性」「独創性」「説得性」が必要という話は、研究を進める上でとても大切な観点だと感じました。さらに、夏目先生が独自に挙げた5つ目の観点が「計画性」です。夏目先生は、特選をとる3年も前から、特選をとれる実践を進めるためにはどうしたらよいか考えていらっ

しゃったそうです。そして、「名古屋市教育の方向性を調べる」「名古屋市が目指す教育に近い内容の書籍を探す」「勤務校で実践可能な見通しを立てる」「以前に特選をとられた先生から指導を受ける」等の取組をこつこつと続けられていました。この「計画性」が実を結び、素晴らしい実践へとつながったのです。また、夏目先生は、講話の中で、「ちょっとチャットタイム」の時間を設けられました。ただ講話をされるだけでなく、参加して下さった受講者の先生方の生の声をチャット形式で聞き、それに答えるといった内容です。参加者が聞くだけでなく、自らの考えも伝えられる双方向の講話の形式に驚かされました。

また、研修会の後半は、「ブレイクアウト機能」を活用し、学年別に「2学期実践の予定」「今、困っていること」などを話し合う場を設けました。同学年ということもあり、それぞれの悩みに共感したり、先輩からアドバイスをもらったりと有意義な研修の場となりました。

【第2回ステップアップ全体会 ~1/31 オンラインにて~】

第2回ステップアップ全体会を上記の日程で開催します。年明けということで、内容は、体験記録を提出した先生方からどのような実践をしたのかを教えていただける場にしていけたらと思います。ステップアップ研修の受講者の方はもちろん、「体験記録って何?」「体験記録には、いずれはチャレンジしたいけど…」と関心をもっている先生方にご参加いただきたいです。

本年度は、聞いているだけでなく、「参加型」の研修を積極的に取り入れています。先生方のご参加によって同好会活動がより盛り上がり、何より他校の先生方と語り合うのは楽しいです!!たくさんの先生方が参加していただけることを願っています。

授業力アップ研修

本年度、小学校のグループでは、それぞれ2人ずつリーダーについていただき、交代で1か月に一度ほどのペースで会を開いていただきました。定期的に会を開けたことで、若手の先生の学びの場、そして同世代の仲間との交流の場となりました。



【参加者の声】

- 自身の実践について、様々な視点からアドバイスをいただき、とても勉強になりました。また、先生方の熱心に取り組まれた実践について知ることができ、勉強になると同時に、とてもよい刺激となりました！
- 社会科の授業に関するだけでなく、このような場でしか聞けない学校での悩みなどについても相談できるのでありがたいです。
- 経験年数の近い先生が頑張っている姿を知ること、自分も頑張ろうという刺激になります。社会科の専門性を高めることにもつながっており、毎回とても有意義な時間を過ごせました！

オンライン交流会

本年度からの新しい活動として、7月21日(木)に、オンライン会議システム「Zoom(ズーム)」を用いて、「オンライン交流会」を開催しました。この企画は、もともと年度末アンケートにて、会員の方から、「コロナ禍で、会員同士のつながりが作れない」「いろいろな先生と出会える場がほしい」との声をあげてくださったことから考えられました。ブレイクアウト機能を活用し、「学習問題づくり」「教材研究」「学級経営」「成績の付け方」「休日の過ごし方」などのトークテーマの中から自分の興味がある部屋を選んで入り、語り合いました。参加してくださった先生方からは、「普段、学校では話せなかった悩みを話すことができてよかった」「先輩から教室掲示の工夫について直に教えてもらえてよかった。」「同年代の先生と話せる場が少なかったので、よかった」などの声があがりました。



12月8日(木)には2回目のオンライン交流会を開催しました。1回目同様、会員の方が積極的に参加してくださったことで、和やかな雰囲気での会が進みました。来年度以降も会員同士が交流できる場としてオンライン交流会を開催したいと考えておりますので、是非ご参加ください。

～今後の予定～

- 1月 18日(水) 19:00～ 小・中学校合同発表会(ウインクあいち)
- 1月 25日(水) 19:00～ 授業づくり講座(名古屋市中企業振興会館)
- 1月 31日(火) 19:00～ ステップアップ全体会(ZOOM開催)
- 2月 10日(金) 19:00～ 全体会(ZOOM開催)

社会科同好会の LINE 公式アカウントがスタートしています。速やかに、かつ効果的に皆さまのニーズに合わせた情報を発信していきます。ぜひ、右のQRコードを読み取り友だち登録をお願いします。

